



令和元年8月13日

各 位

会 社 名	株式会社アプリックス	
代表者名	代表取締役社長	根 本 忍
	(コード：3727、東証マザーズ)	
問合せ先	取締役 兼 経営管理部部長	倉 林 聡 子
	(TEL. 050-3786-1715)	

「アプリックス事業ビジョン2019」策定に関するお知らせ

当社は、本日開催した当社取締役会において、令和元年度における事業ビジョン「アプリックス事業ビジョン2019」（以下「本事業ビジョン」）の策定について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社は、創業以来展開してきた「組込み」事業、及び当該事業に係る技術と経験知を根幹とし、「まだ繋がっていないモノ・コトを繋げるコネクタ」が当社の役割であると考え、低消費電力を大きな特長とする近距離無線通信技術である Bluetooth Low Energy (BLE) に対応した IoT モジュールを介し浄水器等の水資源に係るセンサとクラウドを繋げる技術をはじめ、Amazon Alexa などの AI 及び音声認識技術を基にしたスマート・スピーカーと家電等を繋げる技術、及びモビリティ・システムのための各種センサとクラウドを繋げる技術等に係る製品とソリューションを提供してまいりました。しかしながら、IoT を取り巻く市場環境の変化は顕著であり、そのような状況に対応するため事業の方針や方向性等について見直しを図った結果、当社の事業を大きく「デジタルトランスフォーメーション(DX)事業」と「プラットフォーム (PF) 事業」に分けて事業活動に取り組むことといたしました。

DX 事業においては、これまで特定の顧客や業界に向けて提供してきた IoT を基軸としたシステムインテグレーションやパッケージサービスについて、対象領域を法人向け（インダストリアル IoT）にシフトし、提供する技術やサービスのラインナップを拡充してまいります。

PF 事業においては、次世代移動通信規格「5G」時代の到来を視野に、MVNO サービス「スマモバ」を運営する MVNO 事業者であるスマートモバイルコミュニケーションズ株式会社を当社が完全子会社化（令和元年7月24日付適時開示「株式会社アプリックスによるスマートモバイルコミュニケーションズ株式会社の簡易株式交換による完全子会社化のお知らせ」参照）することにより、第3世代（3G）、第4世代（4G）及び将来的には第5世代（5G）移動通信システムを用いた新たな製品・サービスや、費用対効果の高いサービスを創出し、また、その他の当社が現時点では保有していない要素技術等を有する企業や団体等との提携やアライアンス等を行い、要素技術等の拡充を図ってまいります。

そのうえで、PF 事業におけるテクノロジーやサービスラインナップの拡充と、DX 事業における知見やノウハウの蓄積を両軸で取り組み、DX 事業と PF 事業を相互に補完させることで、DX 事業と PF 事業の個々それぞれの事業の強化及び拡充を図り、顧客に対して最適かつ効率的なワンストップソリューションの提供をめざしてまいります。

なお、「アプリックス事業ビジョン2019」の内容については、添付資料をご参照ください。

以上

アプリックス事業ビジョン2019

2019年8月13日
株式会社アプリックス

アプリックスは創業以来、メディアやネットワーク、制御系機器などをテクノロジーでつなぎ、「特定のお客様・業界向けにカスタマイズされた、新たな価値を生み出すソリューション」を提供。

アプリックス
「まだつながっていないモノ・コトをつなげるコネクタ」
スローガン
「Connecting the Unconnected」

共通基盤技術 × 産業コア技術 × データ



2017年3月以降、新経営体制のもと創業時の「株式会社アプリックス」に商号を変更し、アプリックスが強みとする組み込み事業からアプリケーション、クラウドまでを一貫して提供できる技術力とノウハウを軸として、事業の選択と集中を実施。

《アプリックスの強み》

①IoT開発に必要な組み込み技術力

アプリックスは、カーナビ、携帯、家電などの分野における30年以上の取り組みを通じて蓄積した、ハードウェアの知識を活かしたアプリケーション、プラットフォーム開発の実績・ノウハウを保持

<ハードウェア>



設計から部材調達、生産、
認証対応等

<ファームウェア>



ハードを制御するソフト
当社独自開発

<アプリケーション>



UI・UX設計から
アプリフレームワークまで
設計

<クラウド>

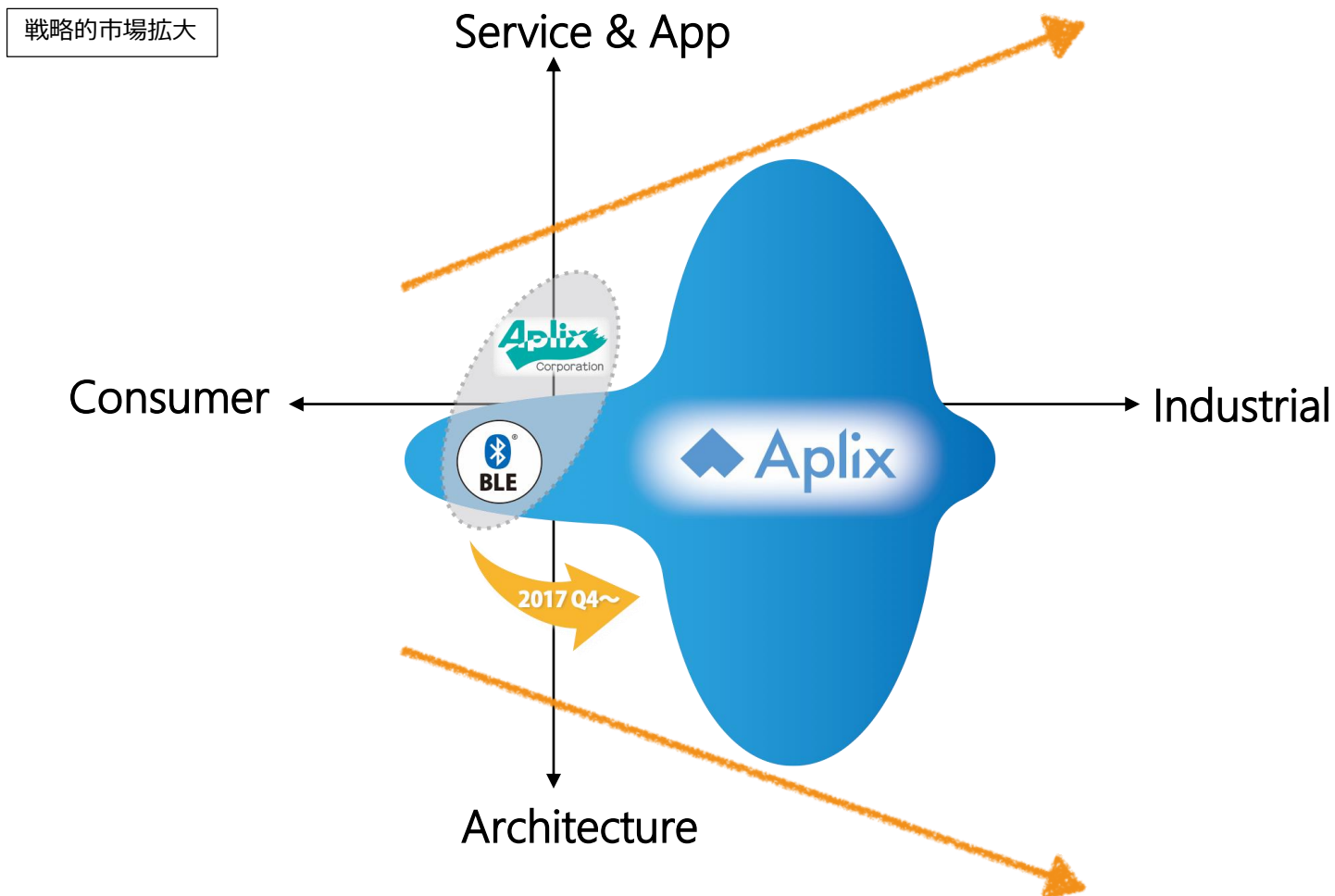


大規模IoTサービスの運営

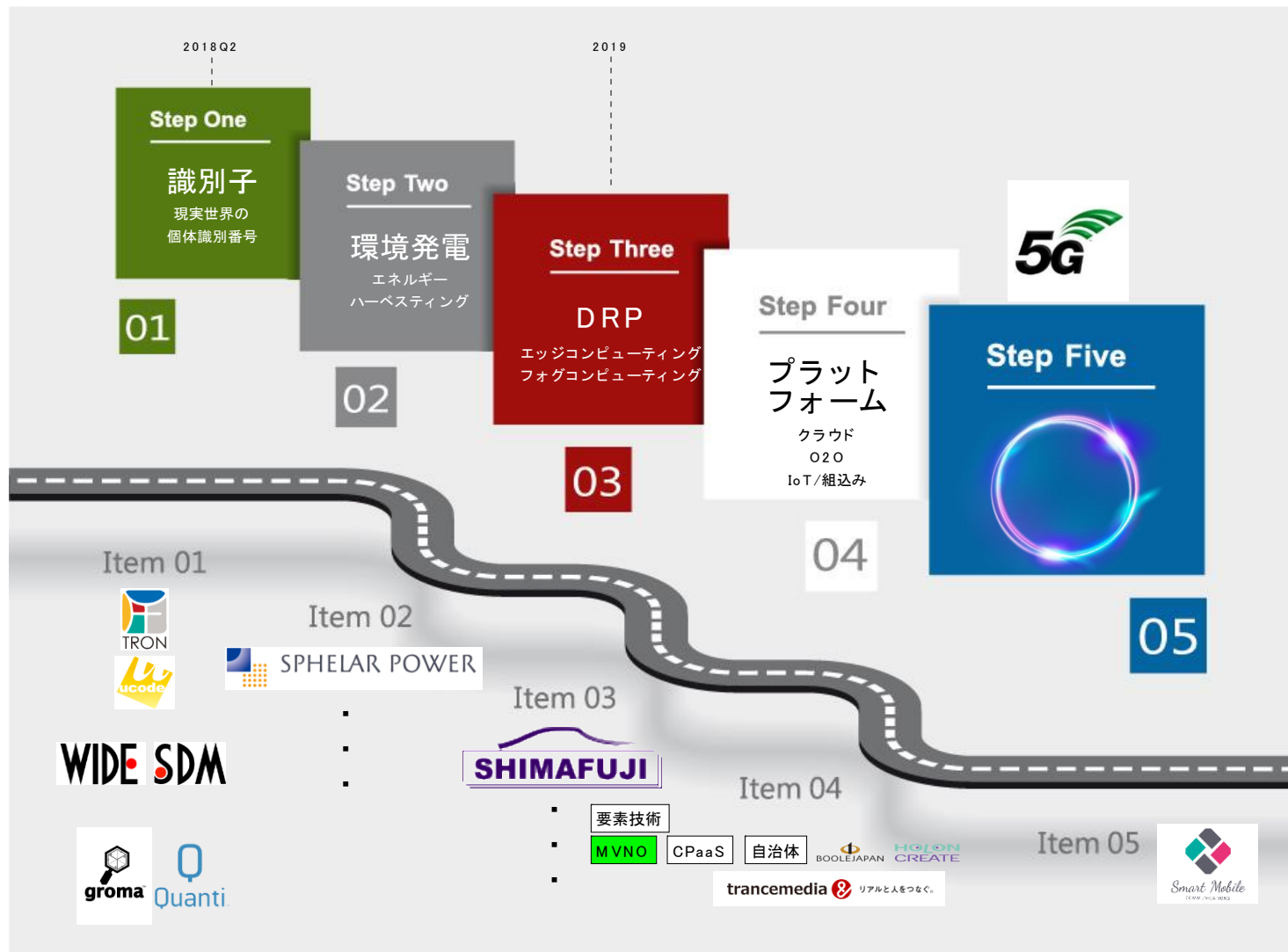
②大規模IoTシステム開発

③海外でのIoTソリューション実績

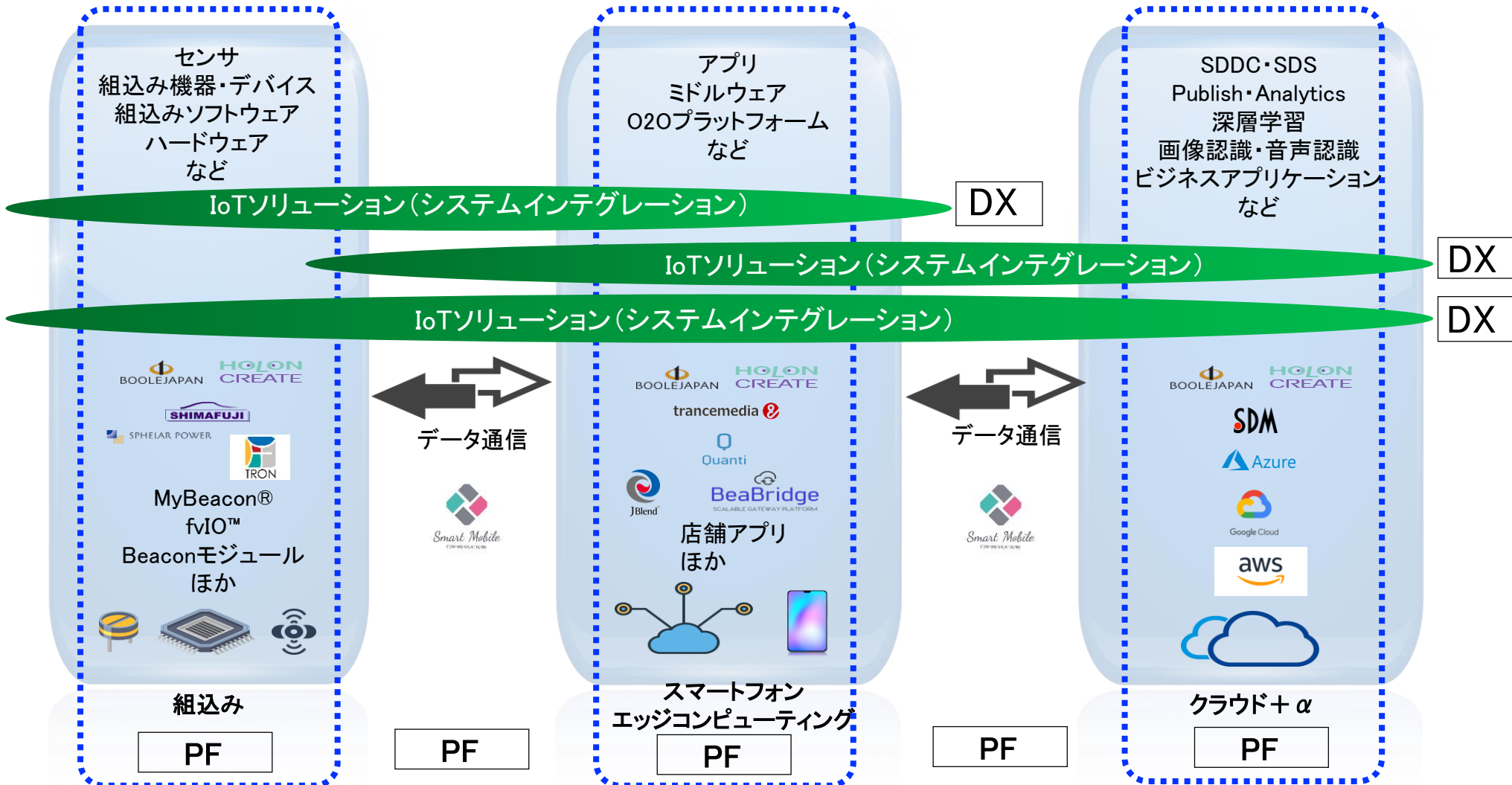
特定のお客様や業界に向けて提供してきたIoTを基軸としたシステムインテグレーションやパッケージサービスは、対象領域を法人向け（インダストリアルIoT）にシフトし、提供する技術やサービスのラインナップを拡充。



アプリックスが現時点では保有していない要素技術を有する企業や団体等と連携。次世代移動通信規格「5G」時代の到来を視野にMVNO事業を営むスマートモバイルコミュニケーションズ（株）を子会社化。



3つの要素技術群とデータ通信から成るタテの軸をPF事業、それらを組み合わせて個別最適に提供するソリューションをDX事業と位置づけ、相互補完と個々の事業の強化・拡充を図る。



アプリックスは、PF事業におけるテクノロジーやサービスラインナップの拡充と、DX事業における知見やノウハウの蓄積を両軸で取り組み、お客様に対してより最適かつ効率的なワンストップソリューションの提供をめざしてまいります。

